

山岳ぐんま

第十七回山田昇記念杯登山競争大会 報告 望月将悟選手大会新記録で優勝

群馬県山岳連盟総務部長 女屋 等志



川場村・沼田市とともにわが群馬岳連が主催事業として開催する山田昇記念杯登山競争大会は、平成二年九月三十日に第一回大会開催以来、回を重ねて第十七回大会となつて、空が高く澄み渡つた平成十八年九月二十四日、山田昇・三枝照雄両氏が少年時代から親しんだゆかりの地、上州武尊山に二〇〇名を超える登山愛好者を集めて開催された。

前回の第十六回大会から、山田昇記念杯の部に男子三十五歳以下、男子三十六歳以上五十五歳以下、男子五十六歳以上と女子の四部門と、三枝照雄賞の部に男女の二部門を設けた新方式が導入されて、二回目の大会である。

今大会では、望月将悟選手(静岡消防所属)が、二時間〇〇分二九秒で走り抜け、山田昇杯男子三十五歳以下の部で初優勝。前回大会1位・2位の松本大・横山忠男両選手が不出場とはいえ、これまでの大会記録、すなわち平成十二年第十一回大会で鍋木毅選手が記録した二時間〇一分一二秒を超える快挙であった。大会コースは、前に安全確保等競技運営上の理由から僅かな変更があったが、第一回大会の優勝タイムが二時間

一八分三二秒であったことから、上位入賞選手の競技力は確実に向上していると考えられ、いよいよ二時間の大会を切る新記録の達成が期待されるのである。

三枝照雄賞男子の部では田口修一選手(沼田高校)が、三時間〇九分三七秒でゴール。前回初優勝したタイム(三時間〇四分五九秒)に及ばなかったものの二連覇を成し遂げた。

大会参加者は、山田昇記念杯の部に八十一名、三枝照雄賞の部に二十五名、競争を行わない一般参加の部に二十二名、合計百二十八名であった。前回大会に比べ特徴的なことは、山田杯参加者(前回六十八名)のやや増と対照的に三枝賞参加者(前回五〇名)の半減である。

今大会に集まつた地元川場村、沼田市、そして群馬岳連役員は、確認されただけでも八十二名を超え、恒例の大会とはいえ、企画準備の段階から、大会終了後の会場の整理・復元や標識撤去、協賛企業他への報告・挨拶に至るまで、多くの方々への援助と協力に支えられて大会が営まれていることを改めて実感することができた。関係各位に心から感謝申し上げたい。



第 17 回 山田昇記念杯登山競争大会記録

山田昇杯の部

◆男子 35 歳以下の部

1	望月 将悟	静岡消防	2° 00' 29"
2	池田 幸男	太工山岳部OB	2' 11" 19"
3	吉田健太郎	佐川急便	2° 31' 29"
4	吉田 尚紀	境町山の会	2° 34' 31"
5	松本 浩	境町山の会	2° 37' 23"
6	沼野 健補	片品山岳ガイド協会	2° 47' 55"
7	飯塚 敏宏	群馬ミヤマ山岳会	2° 48' 11"
8	渡辺 幸一	安中市	2° 58' 19"
9	清水 正輝	埼玉県深谷市	2° 58' 23"
10	高橋 博征	長野県長野市	2° 58' 30"
11	原 邦彦	みなかみ魚原	3° 03' 01"
12	石井 達幸	伊勢崎市	3° 05' 50"
13	白井 純一	千葉県柏市	3° 06' 20"
14	佐藤 亮	アキレス	3° 16' 15"
15	丸山 剛志	東京電機大学	3° 16' 33"
16	鈴木 壽和	利根郡片品村	3° 34' 29"
17	吉田 政弘	栃木県宇都宮市	3° 56' 27"
18	中村 則秋	高崎市	3° 59' 06"
19	日川 義哲	東京都江戸川区	4° 00' 46"
20	鳥山 義則	渋川市	4° 06' 35"
21	大野 真也	大泉高校	4° 09' 32"
22	馬淵 洋志	前橋市	4° 33' 56"
23	唐沢 良則	沼田女子高校	4° 41' 39"

◆男子 36 ~ 55 歳の部

1	テニスオコー礼	東京都青梅市	2° 35' 41"
2	粕川嘉久治	桐生市	2° 43' 51"
3	若井 栄一	十日町地域消防署	2° 45' 37"
4	小平 博	チーム・まいんど・トライアスロン	2° 47' 59"
5	斎藤 光広	越生七福神TC	2° 48' 22"
6	岩川 修	大空ヒマラヤ会	3° 01' 12"
7	川崎 政春	越生七福神TC	3° 02' 14"
8	割田 靖	高崎市	3° 04' 13"
9	小山 勝稔	翌松山岳会	3° 06' 44"
10	西巻 良吉	新潟県三条市	3° 07' 23"
11	大谷 俊行	大泉町役場	3° 07' 49"
12	廣瀬 昭憲	高崎工業高校	3° 09' 07"
13	若本 雅史	茨城岩山	3° 12' 36"
14	藤田 新二	十条自衛隊	3° 14' 28"
15	坂本孝一郎	東京都あきる野市	3° 18' 57"
16	神田 一浩	桐生走ろう会	3° 26' 18"
17	高橋 俊一	群馬県警察本部	3° 29' 30"
18	田村 将夫	越生七福神TC	3° 32' 55"
19	兎川 道成	ラビットRC	3° 33' 32"
20	大堀 努	神奈川県小田原市	3° 34' 32"
21	青木 進	大間々山岳会	3° 40' 16"
22	坂上 昭	熊谷山旅会	3° 40' 27"
23	飯田 祐治	高崎TRC	3° 45' 40"

◆男子 56 歳以上の部

1	水野 正則	十日町山路野会	3° 05' 28"
2	山田 豊	沼田山岳会	3° 06' 16"
3	中澤 安信	伊勢崎山岳会	3° 22' 09"
4	武井 幸一	太田山岳会	3° 29' 41"
5	唐沢 三夫	沼田市	3° 31' 24"
6	山下 富也	桐生走ろう会	3° 43' 09"
7	井上 土史	高崎市	3° 45' 52"
8	尾崎 兼行	袖沢溪友会	3° 51' 14"
9	斎藤 長作	松井田山岳会	3° 53' 24"

10	斎藤 正博	尾茂枝路歩樹	4° 00' 17"
11	横山 寿雄	高崎工業高校	4° 18' 49"
12	高橋 澤	桐生走ろう会	4° 26' 14"
13	松本 丞司	沢野クラブ	5° 00' 00"

◆女子の部

1	池田 陽子	栃木県鹿沼市	2° 37' 53"
2	船橋 緑	埼玉県さいたま市	2° 52' 08"
3	中村 マリ	高崎市	4° 43' 16"

三枝照雄賞の部

◆男子の部

1	田口 修一	沼田高校	3° 09' 37"
2	町田 勝寿	高崎工業高校	3° 18' 19"
3	福原 優志	高崎工業高校	3° 22' 37"
4	新井 光	高崎工業高校	3° 25' 27"
5	田中 志道	新島学園高校	3° 28' 35"
6	石橋 成	沼田高校	3° 31' 29"
7	堤 岳彦	沼田高校	3° 37' 05"
8	萩原 正和	新島学園高校	3° 39' 55"
9	小林 応充	新島学園高校	3° 41' 38"
10	田村 直也	沼田高校	3° 41' 58"
11	堀越 伸彦	高崎工業高校	3° 49' 59"
12	荒井 洵	新島学園高校	3° 57' 49"
13	林 正平	沼田高校	4° 10' 22"
14	高橋 一也	沼田高校	4° 11' 24"

15	小林 大樹	沼田高校	4° 13' 40"
16	金子 拓也	高崎工業高校	4° 18' 16"
17	若月 貞暢	高崎工業高校	4° 28' 05"
18	小淵 順平	高崎工業高校	4° 43' 01"
19	中里 宗旦	沼田高校	4° 49' 24"
20	狩野 勇斗	高崎工業高校	4° 53' 51"
21	永井 千博	前橋工業高校	4° 53' 38"

◆女子の部

1	柳澤 理加	前橋女子高校	4° 50' 21"
---	-------	--------	------------

(表中の °' " は、時間・分・秒を表す)



平成十八年度 群馬県山岳連盟救助隊

群馬岳連遭難対策部長

松 永 幸 雄

平成十八年度の救助隊は一人の新隊員が加わり、編成は次のようになりました。

顧問 西山年秋 (沼田)

隊長 松永幸雄 (沼田)

副隊長 小暮文彦 (境)

町田幸男 (大田)

書記 清水裕千 (むすび)

隊員 梁瀬佐市、清水福治、桜

澤斉 (以上沼田)、堀越利通 (群

馬登高念)、角田守 (前橋)、阿久

津幸弘、武井幸一、長山栄二 (以上太田)、小和田和貞、飯塚敏宏、小和田美由紀 (以上群馬ミヤマ、

剣持典之 (境町山の会)、沢田和久、

堤 宏康 (以上山岳溪流会岩遊)、

福田純一 (大間々山岳会)、協力

隊員 齋藤長作 (松井田山岳会)

以上の編成となりましたが、大

間々の福田君が今年度から復帰し

た隊員です。

新体制になって九年目の救助隊

ですが、経験を積んだ隊員

が自信を持って行動できる

ようになってきて、安心し

て任せられるようになって

きました。

今後は訓練を重ねること

で、より一層の救助技術の

向上を図り、困難な遭難現

場でも自信を持って救助に

当れる救助隊にしていきたい

と思っています。その

為にも隊員のより一層の山

全てに対する真剣な取組み

を期待します。



七月四日の谷川岳山開きに合わせ、第一回救助訓練は、滝沢リッジからテールリッジまでのチロリアン搬送が無事順調におわり

ました。九月には南稜テラスからテールリッジ末端までのロープ搬送訓練を実施しました。今後三月に訓練を実施します。

沢登り講習会に参加して

前橋山岳会 田中 弘

二〇〇六年の群馬県山岳連盟主

催による沢登り講習会が、七月

三十日 (日) にみなかみ町、湯の

小屋沢川で開催されました。

今回はなかなか梅雨が明けず、七

月下旬でも梅雨前線が本州上に居

座り、梅雨明け宣言もなく、毎日

ぐずついた天気が続いていました。

当日も明け方の空はどんよりと

した雲に覆われていましたが、湯

の小屋沢川の取水口手前広場に集

合時刻の七時頃になると次第に雲

が切れはじめ、講習が始まる頃に

は青空が広がってきました。(後

で知ったことですが、この日に梅

雨明け宣言があったということ

です) 講習会の参加者は初級・中級

を合わせて十四名 (岳連の指導委

員含む) でした。講師は山岳溪流

会「岩遊」の豊野則夫氏、ヤマセ

ミ倶楽部の竹内秀樹氏等六名で二

班に分かれて指導していただきま

した。

初めに豊野講師より沢登りの楽

しみ方のポイントや注意点など概

略の説明がありました。その後、

車に分乗して入渓点近くの駐車場

まで移動しました。湯の小屋沢川

は、今まで続いた長雨の影響で水

量も多く、また水温もだいぶ低

かったため、泳ぎをした後は夏の

太陽の日差しを浴びても体がブル

ブル震えました。しかし参加した

人達は、それに臆することなく、

積極的に水流の中に入って行き、講師の話に真剣に耳を傾けていました。

講習の内容としては、例えば岩

場でのヘツリの場合には水際や水

中に意外と良い足場 (スタンス)

が隠れている場合が多いので、そ

れらをよく見てさがすこと。泳ぎ

の苦手の人には、ザックをビー

ト板代わりにして、トップの人

にザック及び身体を連結したロー

プで引いてもらう「ザックピスト

ン」による方法が有効であるこ

と。また、三〇五メートル位の「お

助け紐」が一本あると安全確保に

非常に役だつこと等の話の他、ゴ

ルジュでの通過やゴロ口での歩き

方、滝の直登や渡渉での注意点

等々、沢登りの基本を実践に即し

て指導していただきました。

午後二時半に沢から上がり、三

時に集合場所の駐車場に戻り解散

となりました。

今回の講習会で教えてもらった

技術や内容も、実際に沢に入って

何度も何度も反省し、実践してい

く中で覚えていかないと身につか

ないと思うので、それには何より

も沢に入ること、そのことを肝に

銘じて取り組んでいきたいと思

いました。



第29回県民登山大会 報告

《沼田市玉原高原（鹿俣山・尼ヶ禿山・玉原湿原）》

山岳渓流会岩遊 堤 宏康

十月二十二日に岳連恒例となり

ました「県民登山大会」が「群馬県民の日」の記念事業（第22回）の一環として開催されました。

会場は、「ミニ尾瀬」の名にふさわしい湿原と、関東近郊では珍しい、ブナの自然林を育む玉原高原です。

ここで、会場選定など大会の概要について記しておきます。

本登山大会は「楽しく安全に故郷の山を登山し、山の自然に親しむとともに、登山の喜びを味わい、健康と体力の保持増進を図る」を趣旨としています。そこで、参加者の面から「①安全であること ②地域を代表する山域であること ③山の美しさを感じられること ④ほどよい達成感があること」、また、大会運営の面から「⑤緊急時に迅速に対応できること ⑥交通の便がよいこと ⑦駐車場の確保（概ね一〇〇台） ⑧水場の確保 ⑨トイレの確保」などを視点としました。前年度の反省点や、理事会の折での諸先輩方のご助言も参

考に検討を重ねました。

当初は、深田百名山の一つ「皇海山」も考えましたが、⑤や⑦の点から没としました。

また、「大峰山・仏岩」も考え下見登山を行いました。④⑧⑨の点や、「山蛭」の恐怖から選外としました。さて、「玉原高原」

ですが、中心広場が、大会運営の条件をほどよく満たすことができず、各コース設定でずれました。また、各コース設定ですが、参加者が「自身のたどった山々を一望し、達成感を味わうこと」をねらえるのではないかと考えました。我々「岳人（沢人）の足では、二時間程度のコースですが、コースタイムを下見時間×2十一時間で設定しました。実は、一番の悩みどころは、①と⑤の点でした。自己責任が原則とはいえ、趣味・遊びの世界でも、主催者・指導者の責任が法廷で問われる時代です。こちらの予想もつかない参加者や不測の事態も想定されます。緊急時の連絡体制や関係機関との連携などを考える

と、通信の絶対的な確保は、今後の県民登山の必須条件かもしれませぬ。本コースは、地形的に恵まれ、無線通信がほぼ全域にわたって確保でき、事前の下見で主要な

地点で携帯電話が通話可能であることが確認できたのも会場決定の決め手でした。また、玉原東急リゾート様のご好意で、緊急車両の通路も確保できたことも書き添えておきます。

さて、当日の大会ですが、前夜の雨が、高原の空気をより清らかなものとなりました。晩秋の気配が濃い玉原高原に、県内各地から参

加者、関係者総勢一八〇余名が集いました。

朝七時三〇分、玉原高原中心広場にて開会式が行われました。星野光岳連会長の挨拶、佐藤光由大会委員長の挨拶、大会役員紹介と進みました。各コースのリーダー、サブリーダー、通信、救護と各山岳会の錚錚たる面々が紹介されていきました。班編成の後、計画通り、八時に各コースへと発つていきました。

各コースとも順調であることを知らせる無線連絡を受け、ほっとしつつも、「今後も何もなければ」と祈るような気持ちでした。幸い、参加者のご協力もあり、各コースとも、無事に予定より早めに中心広場に戻ってきました。

記録では、午後一時に最終参加者が到着し登山終了となりました。みなさんの笑顔が、秋晴れの空と相まって、さわやかで印象的でした。

順次、恒例の豚汁で、小腹を満たし、三々五々解散となりました。ほぼ計画通り無事に県民登山を終えられましたのも、会員皆様の献身的な取組みの賜と感謝しつつ後片付けを行いました。

末筆になってしまい恐縮です



鹿俣山山頂にて

が、沼田山岳会はじめ、各山岳会の皆様に心より御礼申し上げ、報告を終えたいと思います。

◆コース

湿原紅葉探索コース《玉原湿原周辺》

初級者向き・約四時間三〇分

中心広場↓自然環境センター↓玉原湿原↓長沢山↓ブナ平↓探鳥路↓中心広場

ニケヶ禿山縦走コース《ニケヶ禿山》

中級者向き・約五時間

中心広場↓玉原ダムサイト↓ニケヶ禿山頂↓玉原越分岐↓玉原湿原↓自然環境センター↓中心広場

鹿俣山展望コース《鹿俣山》上級者向き・約五時間三〇分

中心広場↓ヒノキノ森↓キャンプ場分岐↓石楠花尾根↓鹿俣山頂↓ブナ平↓探鳥路↓中心広場

◆リーダー

湿原コース

CL 見城正造 (沼田)

SL 沢田和久 (岩遊)

CL 霞 文博 (岩遊)

CL 飯塚敏宏 (ミヤマ)

CL 堤 宏康 (岩遊)

鹿俣山コース

CL 山田 智 (岩遊)

SL 上原弘樹 (岩遊)

ニケヶ禿山縦走コース

チーフリーダー

山岳溪流会岩遊 霞 文博

だいたい昨年の秋に行われた群馬岳連の県民登山大会について、

所見を書くように依頼されたのが、二月に行われた「岩遊」の新年会の席だったので、「何一つ覚えていません」と逃げようと思っ

ていましたが、会長からの矢の催促に観念し、思い出し出し頭をひねりながらまとめました。

手帳を見たら、日には十月二十二日(日)と分かりました。

天気はイマイチだったような気がする。朝、玉原に駆けつけたら「うんと飲んだ」ような顔をした岩遊の面々がそろっていた。まあこれはいつものこととして驚くことではないのだが、集合時間になった

らたくさん参加者がいるのにややあせった。「リーダー」などと紹介されるような方ではないのでこっぴどかしい思いをした。

なんだかんだで、岳連の諸先輩方が一緒なので安心し、自分は「りあえず先頭でゆっくり歩くべえ」といった感じで出発した。(よ

うな気がする)

玉原湖畔の林道から登山道に入った。雨で湿つてはいたが、ぬかるむような道ではなかった。どちらかというあまり若くない方々が多かったので、本当にゆっくりゆっくりペースを作ることが心がけた。紅葉にはやや遅く、鮮やかな色はなかったが、それでも秋の落ち着いた色彩のなかを「リーダー」であることを忘れて楽しんだ。(よ

うな気がする)

頂上へは、分岐から左側がやや切れている場所を二〇mほど歩くことになるが、特に問題なく皆通過した。頂上は狭く全員が弁当を広げられないので、記念撮影をして先へ進むことにした。そういう

ば頂上で「ゲロチン」しているおじさんがいたが、あの方は誰だったのでしょうか?

鉄塔の下でやや早い昼食にした。ラーメンとおにぎりを食べた

ような気がする。弁当箱のおかずを色々広げて食べている人や、サンドイッチを作って食っている

人がいて「ちつとでいいからくれ

ねえかなあ、リーダーにも」なんて勝手なことを思っていた。(よ

うな気がする)

林道へ出る手前で沢を横切ることが残っていた。

湿原では、思い思いに写真を撮ったりしながら楽しんでいたので、ややパーティーが長くなってしまっていたが、舗装道に出るま

で時間はかからなかった。ブナの森から出る湧き水でのどを潤し、広場に戻ったら、おいしい豚汁(だったような気がする)がまつ

ていた。

つたないリーダーでしたが、参加者、岳連の皆様にご協力いただき、楽しく歩くことができました。ありがとうございました。

道に戻りシャクナゲの尾根に出て一時間程で山頂に到着しましたが、ここで昼食と思っていました。時間もまだ十一時で山頂もこれだけの人が座れる余裕もなく、まして展望は雲で見えないという事で下のグレンデに戻り、食べました。

昼食時、中学生を連れた親子が、子供の体調が悪いとの事で、役員の方に付いて下山してもらいました。下山は、ブナ平でブナ地蔵を見たりしながら散策気分です歩きました。「今度は春の新緑の季節に歩きたい」。そう思える鹿俣山でした。

鹿俣山展望コース

チーフリーダー

山岳溪流会岩遊 山田 智

当日の朝、集合場所に集まった参加者の方々は、皆「山好きなんだ」と思わせる爽やかな顔をしていました。生憎、天気は曇りで霧がでていましたが、予定通り八時に出発、十分程でヒノキノ森の登山口に着きました。ヒノキノ森は昔から変わらない原生林で自然を感じられる場所です。そこで犬を連れた一人の男性に会いました

が、その人が「奥に熊がいたよ」とゾツとする事を言っていました。「これだけ人がいれば熊も逃げるよ」なんて冗談を言っていました。緊張しました。ヒノキノ森を抜け、一旦グレンデに出て登山

道に戻りシャクナゲの尾根に出て一時間程で山頂に到着しましたが、ここで昼食と思っていました。時間もまだ十一時で山頂もこれだけの人が座れる余裕もなく、まして展望は雲で見えないという事で下のグレンデに戻り、食べました。

昼食時、中学生を連れた親子が、子供の体調が悪いとの事で、役員の方に付いて下山してもらいました。下山は、ブナ平でブナ地蔵を見たりしながら散策気分です歩きました。「今度は春の新緑の季節に歩きたい」。そう思える鹿俣山

でした。

登山教室 鎖場で

群馬岳連登山指導部

高橋 守 男

中高年登山者の登山事故防止
と、余裕を持って楽しい登山が

行なえる手助けをするために、今
年度も恒例の登山教室が開催され

た。

岩場の安全な通過のため、講習

を妙義山で行った。紅葉シーズン
前のため、他の人達に迷惑をかける
ことなく鎖場を何回も上り下り
して十分に実技講習することがで
きた。また、この教室を一步前進
させるため、スノーシュー講習を
2月に今年から追加した。参加者
のニーズに対応することで、今後
の参加者数の増加を
図っていききたい。

今年も、二十人と

いう多くの指導員に
時間を作りくりして
もらいながら協力し
ていただき、無事故
室を終えることがで
きた。

四十二名の申込み
があり、平均年齢は
五十六歳、最高年齢
は七十三歳、最少年
齢三十四歳であり、
男性二十九名、女性
十三名であった。参
加者は三十八名、全
回出席で修了証を獲
得された方は二十三
名であった。

反省・課題として
は次のようにまとめ
られると思う。これ

らを次回へ活かしたい。

①募集方法 昨年の閉会式で返信
用封筒を一人の方から預かり実
施案内を郵送した。例年通り、
新聞各社へ掲載依頼をし、登山
用具店へ案内要項を置かせてい
ただいた。今年はNHK文化セ
ンターにもお願いしたが、懸案
であった公民館等には手が回せ
なかった。

また、申込書への記載不備が
多少目立った。

②講習内容 読図と鎖場をテーマ
に内容を選んだ。「読図とコン
パス」はプロジェクターを使っ
てはいるが、参加者の理解を高
めるにはさらに工夫が必要と思
えた。二十七日は、鎖場に関し
た三テーマで行った。

③実習地 読図と鎖場の技術に的
をしぼり、榛名と妙義で実施し
た。榛名は、県の中央にあり読
図用コースが複数取りやすく適
地であった。妙義では効率よく
鎖場を練習しやすい石門と大の
字周辺を使い、岩場の歩き方の
基本や安全確保について講習す
ることができた。

④ 今年から講習内容の幅を広げ
ようと、二月二十五日に玉原高
原でスノーシュー講習を予定し



ている。参加希望者は十三人と
少なめであるが、今までにない
充実感を持ってもらうため内容
を検討中である。

内 容

9月6日(水) 開講式・講義

「読図とコンパス」 講師 高橋

9月17日(日) 登山実技

「榛名山」

9月27日(水) 講義

「岩と鎖場」 講師 吉田

「救急」 講師 対比地

「ビバーク」 講師 久保田

10月1日(日) 登山実技

「妙義山 石門と大の字周辺」

10月12日(木) 講義・閉講式

「質問に答えて」 「修了証交付」

講師 ◎は班長

吉田 直人(境町山の会)

阿部 源(群馬ミヤマ山岳会)

角田 守(前橋山岳会) ◎

久保田一美(太田山岳会) 受付

日向野克己(高体連)

登坂 巖(高体連) 会計

大沢 清(高体連)

鹿田 雄三(高体連)

山田 精一(高体連) 事務◎

高橋 守男(沼田山岳会) 総務◎

新井 好司(高体連) 事務

対比地 昇(高体連) ◎

清水 人志(群馬ミヤマ山岳会)

星野 俊充(境町山の会) ◎

角田二三男(高体連)

田中 弘(前橋山岳会)

横山 寿雄(高体連)

植木 茂 ◎

佐藤 洋志

青木美矢子



スノーシュー体験

群馬岳連登山指導部

高橋 守男

登山教室参加者の方々の多様な
ニーズに応えるべく、新しい試み
としてスノーシュー体験を岳連登
山教室としては初めて実施した。

秋の教室の修了者を対象に募った
ところ、十三人の方の応募があつ
たが、実際に参加できたのはス
ノーシュー初体験の九人と経験3
回の一人の十人であつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

雪原に入ると、夏には予想でき
ない静かな世界が広がり、開放感
に浸ることができ、参加者全員で
スノーシューの世界を堪能するこ
とができた。また、夏道がまった
く隠れ、どこでも好きなように歩
ける雪原は、秋に勉強したコンパ
ストと地図の有難さを再認識しても
らう機会にもなつた。

に恵まれ、予定した内容を楽しみ
ながら終えることができた。コー
スは次の通り。
玉原スキー場駐車場出発、八時
半夏のレストラン(湿原手前)通
過、北へ向かう尾根に入る。
一二九一m通過。
一三三三m、一四三二m通過。
鹿俣山山頂一六三六・七m(昼食)。
少し戻って南へのびる尾根へ。
一四七四m通過。
スキー場駐車場十五時二〇分。
沼田ICにごく近い萬屋建設駐
車場で反省会を行うと、内容が少
し欲張りすぎで体力的に少しきつ
いコースであつたが、仲間を増や
してまた参加したいという感想が
多かつた。

反省・課題

初めての企画で、参加者数が少
なめであつたが、例年の登山教室
を膨らませる方向性のひとつを確
認できたと思う。以下のことを次
回へ活かしたい。



鹿俣山山頂

平成十八年度冬山合宿

群馬岳連遭難対策部長

松 永 幸 雄

群馬岳連の平成十八年度の冬山合宿が下記のように実施されました。

合宿を計画した会は七つの会で一〇パーティーでした。

太田山岳会 甲斐駒ヶ岳(六名)
甲斐駒ヶ岳(三名)

大間々山岳会 谷川岳(四名)

桐生山岳会 赤沢岳(二名)

境町山の会 槍ヶ岳(三名)

笠ヶ岳(七名)

沼田山岳会 谷川岳(七名)

八ヶ岳(一〇名)

前橋山岳会 燕、常念岳(二名)

松井田山岳会 仙丈岳(六名)

以上のように計画されました。

本年は年末年始に好天に恵ま

れ、一部日程の変更等がありました

が、概ね計画通りに実施されま

した。境町の笠ヶ岳、沼田の八ヶ

岳は計画半ば。松井田の仙丈岳は

日光白根に変更されて実施されま

した。

最近の傾向ですが、合宿のメン

バーを見ると参加者の高齢化が著

しく将来の群馬県山岳連盟が心配です。また厳しい社会情勢の為の日程不足等、山を取り巻く環境は良くありませんが、来年度素晴らしい山行が実施されますように期待します。



①募集方法

今年のような方法と、登山教室から独立したものと募集の窓口を広げる

ことなどが検討課題となる。

②講習内容

天候に左右される時期内容だけに、臨機応変の対応が不可欠である。そのためには、講師の下見が重要と思う。

③実習地

集合しやすい、安全なコースを取りやすいなどの点で、玉原は適していると思う。

毎年実施する場合には、他にいくつかのコースを調べておく必要がある。

参加者のニーズに更に応えるには、スノーシュー以外で講習内容の幅を広げる必要があるかもしれない。

講師の多忙さへの配慮をしつつ、なるべく多くの指導員で分担する工夫が必要である。

⑤講師

吉田 直人 (境町山の会)
久保田一美 (太田山岳会)
高橋 守男 (沼田山岳会)

加盟団体紹介

境町山の会

境町山の会は、一九五七年秋、当時の公民館主事の指導によって、ここに集う若人を中心に創設された。山らしい山のない平坦な町にあつて、山を愛し、山へ憧れを抱く若者達は多かつた。

以来、登山技術の習得と研鑽、会活動の発展を図るべく、春・夏・冬の合宿登山、会山行のほか、町民ハイキングや登山教室など地域社会への登山啓蒙活動を含め、様々な活動を行つてきた。

創立以来のこだわりとして、奥利根源流部がある。幾つもの未踏査の沢に分け入り、藪をかき分け、その開拓を行つてきたことは我が会の誇りとするところである。

他にも、年度の節目にプロジェクトを立ち上げ、創立二十五周年の記念として県境踏査、三十周年には当会初の海外遠征を単独で計画し、ヒマラヤ／プロモ・リ峰の登頂を果たすことができた。また三十五周年の企画として、沖縄を

除く四十六都道府県の最高峰と第二峰の踏破に成功、四十周年にはヒマラヤ／ダウラギリピークへの海外登山にも挑戦した。ダウラギリでは残念ながらピークを踏むことはできなかったが、これらの経験を活かすべく、会員個々のレベルアップも図られ、当会の団結力の強さを示すことができたと思つている。

しかし、その一方で悲しい出来事も幾つかあつた。冬の北ア・穂高岳での合宿中に雪崩に巻き込まれ、一瞬にして八名もの若い命が失われた三十九年前の惨事、卓越した登山家・小暮勝義氏のダウラギリでの遭難、健脚クライマー・大山洋次君の黒部川での滑落死など、振り返れば当会にとって大きな損失となるアクシデントにも見舞われた。

そうした中、一時は会の存続が危ぶまれるような困難に何度かぶつかりながら、ここまでこられたのも、先輩達の山への熱き思いとそのため努力があつたからこそと、その熱意に敬意を払いたいと思つている。

社会人山岳会の活動が衰退し、中高年ばかりが山に集中している昨今、小さな町の山岳会としては活発な登山活動が行われ、会員の拡大も進んでいる方だと私は思う。

低山のトレッキングからヒマラヤ八、〇〇〇mの高峰まで、「何でもあり」が我が会の特徴。岩や雪、氷の壁に張り付く者、沢に、あるいは花に、あるいは山域にこだわる者、海外への熱き思いを抱く者と、バラエティに富んでいる。そして、チーフリーダー、渉外、庶務、会計、編集とそれぞれの役割

を果たす会員達に恵まれ、更には退会していった沢山のOB会員にも支えられているという一面も大きい。

さて、来年秋には創立五十周年の節目を迎える。半世紀の歴史を刻もうとするその中で、これからも「境町山の会」としてその名に恥じぬ活動を続けたいと思つている。

集会は第一、三木曜日に行つていきます。会員募集は随時です。〇二七〇―三三二―六八七一(小暮)まで御連絡ください。

会長 小暮 文彦

前橋山岳会

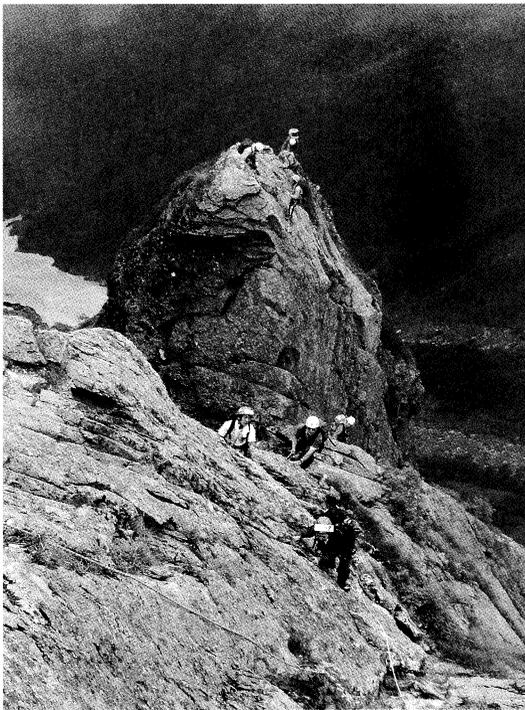
私たち前橋山岳会は一九四〇年(昭和十五年)十二月六日、「前橋ホワイトベア・スキークラブ」より分離独立してスタートしました。県内では高崎山岳会、渋川岳会に次いで長い時代を活動しており、創立六十六年が経過しようとしていきます。

創設会員である田村朝之助翁は御健在で、齢九十六の今シーズンも現役スキーヤーとしてご活躍になられる予定です。

発足当初より地元の山を中心とした山行を重ね、利根源流、谷川連峰を中心に足跡を標してきました。

岳連の海外登山が始まると当会からも遠征に参加する会員が出るようになりました。そして一九八一年(昭和五十六年)にはインドヒマラヤ「スワルガロヒニ」に会単体の遠征を出すに至りました。この遠征は総勢六名の会員で構成され頂上を目指しましたが残念ながら登頂を果たすことは出来ませんでした。

一方、H A J主催の遠征にも参



加し、ヌン峰登頂を果たした会員も生まれました。

そういう中で特筆すべきは八千 m 峰九座十回という記録を持つエース名塚秀二を輩出したことです。彼を中心に当会独自に準備を進め、二〇〇〇年（平成十二年）には群馬山岳連盟傘下の山岳会単位として初めての八千 m 峰遠征隊をブロード・ピークに送り出すことができました。三名の会員が参加し、二名が登頂に成功しました。

しかし、二〇〇四年（平成十六年）アンナプルナ北壁ルートでの事故で、このエースを失う痛手を受けました。また先んじて、

一九七七年（昭和五十二年）広瀬芳弘が谷川岳シンセン沢での雪崩

による遭難事故でと、二名の会員を山で失っています。

現在、先輩方の努力と実績とは裏腹に、会の存続が危うい状態となっておりま。が、活動できる会員が登り続けることで伝統を引継いでいかねばと考えます。

例会は毎週水曜日です。会長の小泉宅（〇二七―二六五―〇五九四、前橋市亀里町一四六一）で行っています。会員募集は随時行っていますので会長、小泉宛て御連絡ください。

では、最後は当会の山のコールで締めさせていただきます。ブラボー！

会長 小泉 俊 夫
CL 角 田 守



雪山生活技術講習会参加の記

・さまざまの考察と反省

大間々山岳会 福田 純 一

平成十九年三月十、十一日（泊二日）の日程で、雪山生活技術講習会が谷川岳西黒尾根にて開催された。雪洞の技術を中心とする講習会であるが、今冬はどこも雪の為、指導部では会場設定に苦労したようである。

講師は角田守氏（前橋山岳会）

小和田和貞氏（群馬ミヤマ山岳会）

の二人に対し、受講者は茂木氏（前橋山岳会）長谷川氏（大間々山岳会）と私の三名というゴージャスな取り合わせであった。

私は本番での雪洞経験となると遥か昔に数泊である。この時期の岳連講習会も何年前に受けたきりだったか。今回思いを新たに講習を受け、又試したいこともあった。そして皆で経験を共有したい気持ちで参加した。

当日の積雪は鉄塔付近で三〇センチ、部分的に夏道も出ている。（昔はこの時期なら鉄塔から指導セン

ターの屋根に向って滑り降りられる程だったのに）充分な積雪深さを求めて鎖場下の雪庇状の処で実施された。

雪洞（元来の日本語では「ぼんぼり」と読み慣わすが、登山用語として「せつどう」である。これは晩餐中の話題）はフオースト

ビバーク（不時露営）に有効な手段であり、また、疲労者・要救者を介助するシェルタとしても役立つ。いくつかのタイプを作ってみましょう、という説明からスタートした。

最初は積雪量が少なくても造りやすい竪穴式のシェルタ。テーマは救護を前提に「二〇分以内で作れ」。

要救者を横に寝かせ、介助者が付き添える長さ・幅の竪穴を平らな雪面に掘り、掘り出した雪ブロックを竪穴の周囲に積んでいく。これで壁面高さは掘った深さ

の概ね二倍になる。更に人員があれば壁面周囲からも雪ブロックを積み上げる。壁高さが介助作業で

きる程度になったなら、天井部にツェルトを被せ、飛ばされないよう裾を雪で押さえる。この時、ゾンテ棒を梁のように渡す。なるほど垂れて来ず具合がよい。以前なら木の枝利用だろうが、今や雪崩

対策三種の神器として持ち歩くゾンテ棒のウラ技的活用だと考える。

出入口は暖気が逃げないように壁面の下をU字形にくぐる形に作る（ビバークが巣の出入口を水面下から作るように）のが大切（冷気溜まりとも）。出入口想定部にて周囲の掘出しをすればし字形になり出入り容易。素早く作るには道具選びも大切という話。今回は雪庇上の為、雪の密度が高く硬く、道具による差がはつきり出た。

スノーソウ…最近のアルミ合金製のもの(ライフレック製等)は軽くシャレているが、切れが悪く、昔からある鋼材メッキ品(エバニュー製?赤いビニルコート鞘の)のものがよく切れた。私は歯長九寸位の枝打鋸で長く代用としてきているが、今回はライフレックにも負けた。

スコップ…組立式は劣る(試したエキスパートオブジャパンのものは、もう使いたくない)。D形把手でしっかりしたものが多い。振り回し易い長さも大切(後に記す横穴内部では特に重要)。日用品の木製柄を自分に合わせ、切り詰めた物もよかった。スノーソウで入れた切れ目にスコップを差したら、把手はすくい側に押しつけてブロック出しせよ、の注意も添えられた。

また、ザックを利用するユニークな製作方法が紹介された。

その手順は①パーテイ全員のザックを小山のように積み上げ②ツェルトを被せる。③周囲から掘出した雪ブロックでツェルトごと覆うように埋める。④ブロックのスキマは雪で塞ぐ(雪の山ができる)。⑤先に練習したU字形出入口を山の底に繋げて掘り、⑥ここ

からザック・ツェルトを曳き落し取出す。今回は六〇リットル以上の大型ザック四個で作ったが、曳出しに思いのほか苦勞し時間が掛かった(吹雪中だったら大変なことになろう)。角田講師の経験では、小さいザック多数で試みた時は「バラバラつと取り出せて」容易だったというコメントがあった。又、ツェルトは裾を山積みザック下に押込むようにすると出し易い。この方法は更に研究・練習が必要と感じた。尚、イグルーの様にブロックをキッチリ積上げなくても、翌日には不安なく天辺に立ち上れる丈夫さになっていた。

午後からは斜面を利用した横穴式雪洞を掘った。雪庇のオーバハンクしていない場所を使った。五人用の大きさなので、出来上がり幅を想定した位置に出入口となる二つの先行横穴を掘り、中で結合し居住サイズまで掘抜ける手法である。(更に大人数なら三つ穴?それ以上大きいものは構造が不安だろう)

作り始めに、二つ横穴の高さが揃う様にする。横穴の奥行長さは二m位、雪質にもよるが、外側壁面としての強度を考える。奥行

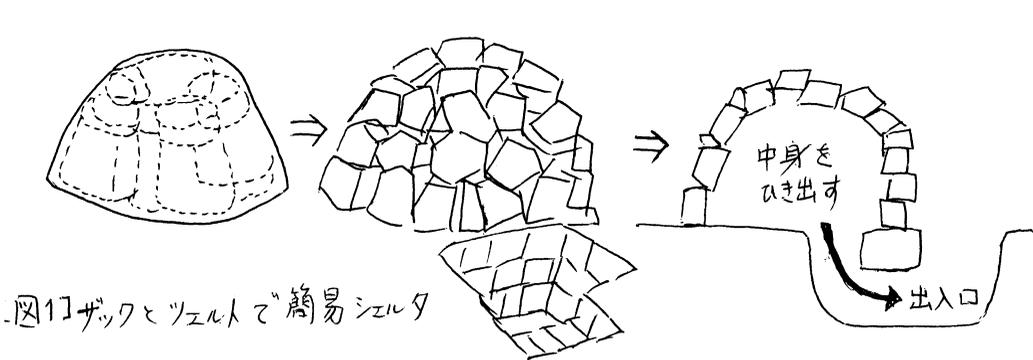


図11 ザックとツェルトで簡易ツェルト



行横穴の天井高さを居住部床面高さ(冷気溜まりの考え方)とする。そこから居住空間に掘り掘げ。この全体像を踏まえた積雪量がないと良い雪洞ができない、またフラッグで設営エリアを上上の雪面に示すことが他の登山者へのマナー、の注意・説明があった。

さあ、さつきと掘って宴会技術講習へ!と始めたが、雪の固さに閉口した。一時間かかっても先行穴が掘りきれない!切れるスノーソウがもう一丁と剣先スコップが欲しかった。(登山用具としての剣先はない。日用品から柄を詰めて作る)

先行穴奥辺りから僅かに軟らかくなったものの、五時間近くかかって居住空間が出来た。天井から壁面の凹凸はコッヘルなどの円い縁で削って滑らかにすると垂れしない旨説明があつたが今回は省略、スコップ仕上げまでで済ませた。又、木・枝が出てきて掘出しの邪魔をするから鋸は必携である。

話は飛ぶ。オルトボックス製の背側が木挽き鋸様の物があるが、ろくに木を切れなかつた経験を踏まえて、装備は必ず試用し、今年のような積雪状態で積極的に雪洞泊するには計画を充分にしたいものである。

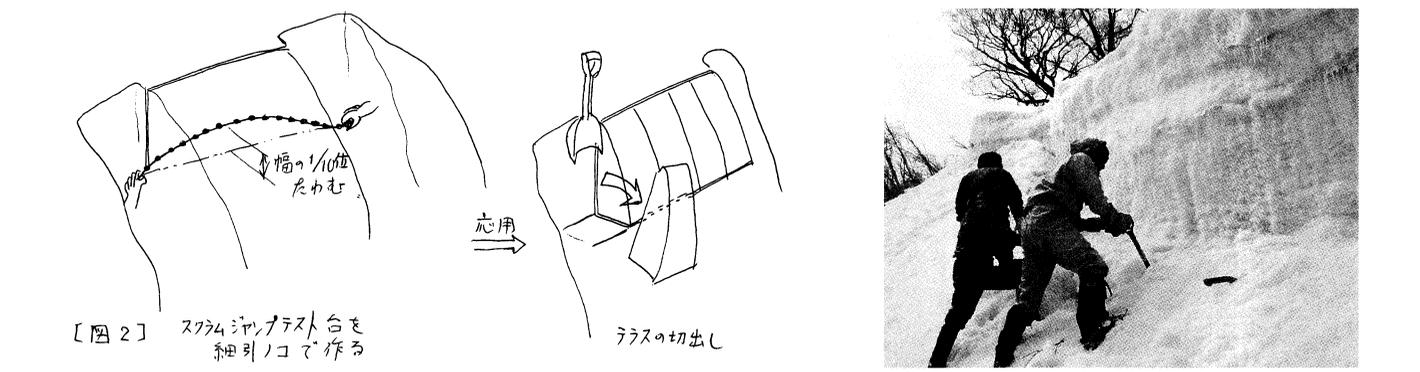
翌日は雪掘りの疲れで、六時過ぎまでぐっすり寝てしまった。外は吹雪、天候悪化しており、午前中で終了に変更。昨日のシェルタに再び入って「防風効果」を確認後、風の弱いところまで下つて、弱層テストとピーコン操作・ゾンデーレンの基礎を練習した。

弱層テストは単純に雪柱を作り(両手で抱えられる太さ、高さ八〇センチくらい)、①上から下へと指先押しで凹む位置に弱層があること、②弱層があるとハンドテストでセン断されること、ハンドテストの力の入れ方(指・手・肘・肩・の順に強くしていく)を学んだ。幾つかのセン断面が得られた後、丁度柱の付け根位置に最弱層があつて、起上り小法師のようにコロリと切れた。一時、陽が差ししてきたので「光透過」を試してみると、最弱層位置が最も明るく高さもあつた。

さて、こうしてハッキリ弱層が

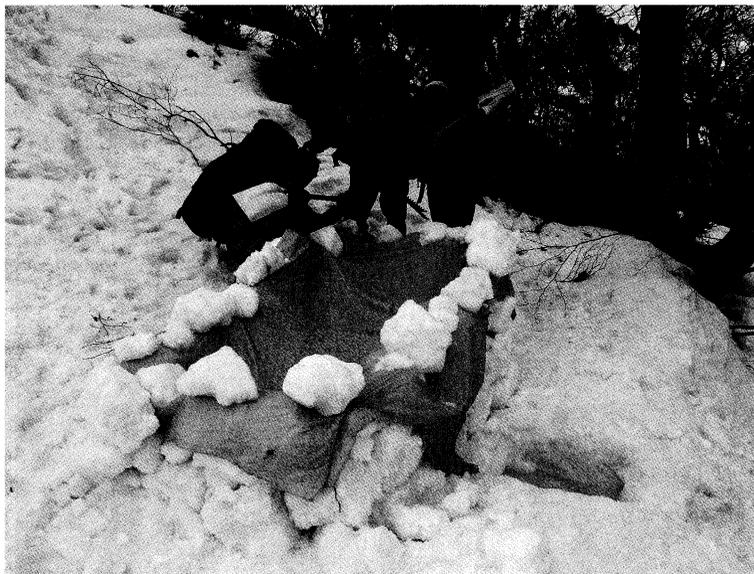
確認できたが、普段の山行で（特
 にここ、西黒尾根に来ていて）確
 認地点で登山中止にするだろう
 か。否、しないだろう。様子を見
 ながらラクダの背がガレ沢のコル
 あたりまでは上るだろう。中山達
 生『最新雪崩学入門』では「弱層
 テストで、雪崩の発生の可能性を
 定量的に捉えられる訳ではない。
 しかし山行の都度実施すること
 で、ナンカ今日ハオカシイと知る
 感覚を作っていくことが大切」と
 という事をのべている。（この本は
 とても良い。数年前の講習会実施
 案内で、参加前に一読すること、
 とあったが皆さん読みこなしてい
 ますか）弱層テストを覚えるのは
 容易だが、だからといって一回の
 講習会を受けてOKでなく、様々
 の条件下・他者の意見を参考に学
 ぶことも含めて、多くの人に参加
 して頂きたいと感じた。（本を読
 み直すと、今回のテスト方法は新
 田式・手稲式とも若干異なる部分
 があるが、先述の理由から良い講
 習だと思う）

この堅い雪では無理では…」と判
 断されたのだが、思いのほかスイ
 スイと切ることが出来た。3ミナ
 イロンロープで約二〇センチに一
 重結び目を作ったものだ。（太さ
 と目幅がよかったのか）但し、軟
 らかい為に長さの十分の一位上に
 たわんだので、それを見越して切
 込み高さを予定する必要があると
 知った。「ダイニーマ等の伸びの
 少ないロープで作ったら」と意見
 が出た。尚、小和田講師から「水
 平に引いて見ましよう」という
 アイデアで試したところ、スッパ
 リし字形に切れた。これを応用し
 てブロック作りの奥行きでし字形
 に切り、スノーソウでブロック幅
 に縦の目を入れてみたところ、ス
 コップで容易に縦平面を作ること
 ができた。横穴式雪洞の掘り始め
 テラス作り等に役立ちそうだ。



【図 2】 スクラムジャンプテスト台を
 細引ノコで作る

テラスの切出し



に埋没ダミーを見つけ出したこ
 と、等話があった。今回は全員が
 アナログ式ビーコンだったがパー
 ティでデジタル式を混在させるの
 もよい方法と考える。（正式呼称
 はアバランチトランシーバだが、
 日本国内の山岳活動では雪崩ビー
 コンの通称で良いと考える）
 実習では「電波誘導法」で二回
 宝探しを行った。

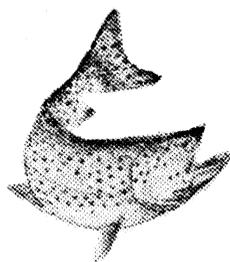
次にゾンデレーン（ゾンデ棒に
 よる探索）の練習。埋没者・ザツ
 クに当たるとクニユクニユとし
 て、樹木・地面とははつきり異な
 る感触を学んだ。ゾンデ棒（プロ
 プ）は「下から二段目を赤く着色
 して掘出し深さを知る」ようには
 毎回教えてもらおうのだが中々実施
 していない。今回持参のゾンデ棒
 では皆無、自分も、やはり講習会
 を受けただけ…の反省をした。
 最後に、貴重な休暇を返上して
 講習会実施に尽力された講師にあ
 らためて感謝の意を表するととも
 に、来年は多くの参加者があると
 を期待します。

味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

沼田市白沢町上古語父 (国道 120 号線) TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802

<http://annapura.jp>



総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 渋川市有馬 164
☎ (0279) 24-7111(代)

工事部 渋川市赤城町北上野 203
☎ (0279) 56-8111(代)

電話、弱電工事

プモリ電設

〒 379-2223
伊勢崎市小泉町 252
☎ 0270-62-2012

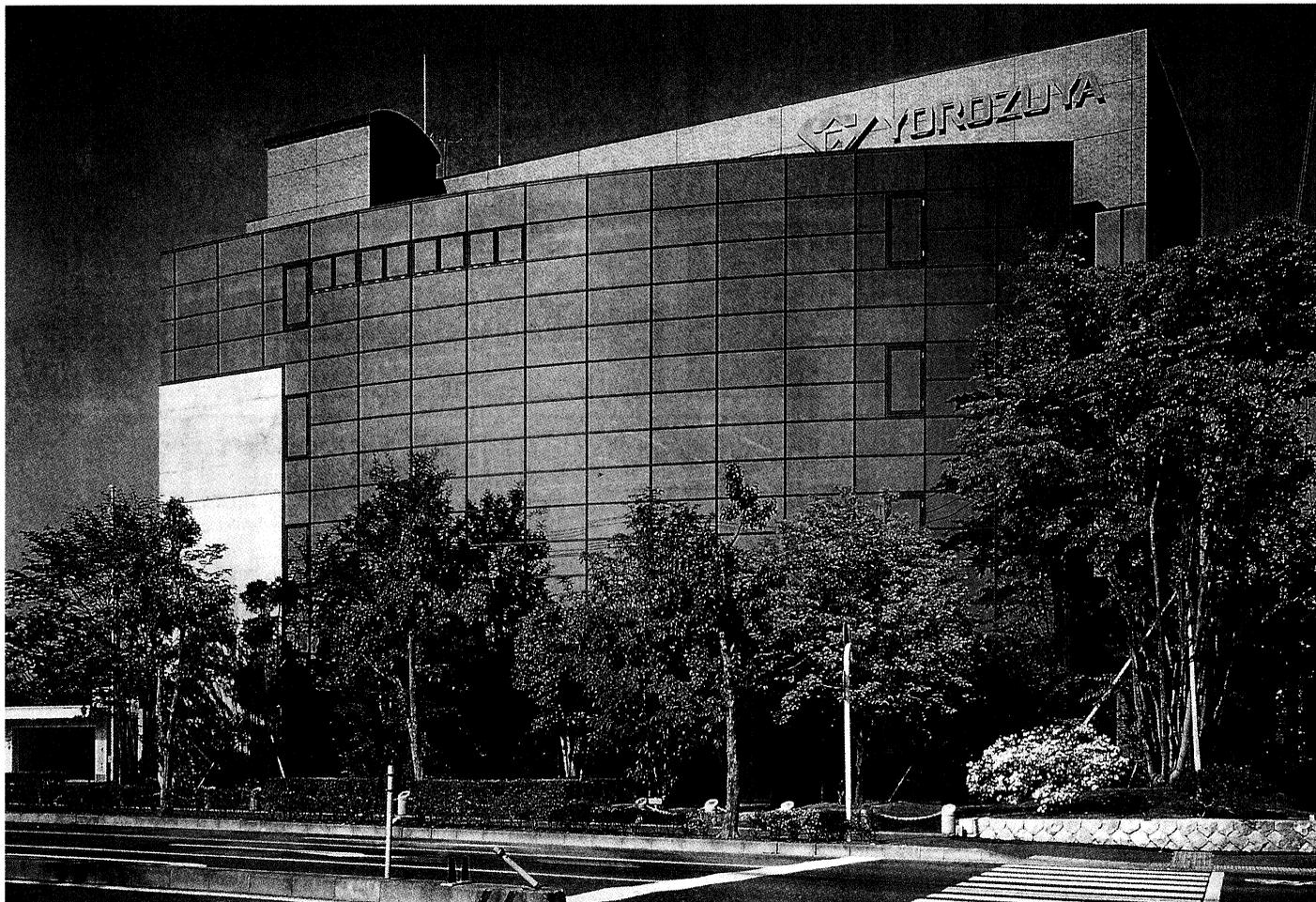


(有) 山とスキーの店 石井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 1819-1
TEL 0270-21-8025
FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)
伊勢崎市中央町 18-8
TEL 0270-25-0272



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21 世紀の人間と環境を考える。

総合建設業



萬屋建設株式会社

会長 星野 光

■本社 群馬県沼田市上原町 1756-2 TEL 0278-23-4648 (代) FAX 0278-24-3371

■支店 東京都豊島区東池袋 4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町 1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店

有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町 1756

TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場

建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋 2338-1 TEL 0278-24-3111

大楊工場 沼田市利根町大楊 187 TEL 0278-56-3682

総合建設業

株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋 1162-5

TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション

萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋 4-2-7

TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964